

第2期明石市中心市街地活性化基本計画の進捗状況等について

本市では、まちの顔となる中心市街地の魅力とにぎわいの向上を図るため、計画期間を2016年度から2020年度までの5年間とする「第2期明石市中心市街地活性化基本計画」を2016年3月に策定し、国の認定を受けました。

計画においては、核事業である明石駅前南地区市街地再開発事業が2017年3月に完了し、現在は、ソフト事業を中心に活性化施策を進めているところです。

このたび、計画期間4年目となる2019年度の数値目標の達成状況及び新型コロナウイルス感染症の影響も含めた今後の取組について報告します。

1 数値目標の達成状況

計画で定めている3つの数値目標の実績値は次表のとおりです。

重点目標	数値目標	調査内容	基準値	実績値	目標値
便利で暮らしやすいまち	①都市福利施設利用者数 (人/年)	パピオスあかし内のあかし総合窓口・あかしこども広場・あかし市民図書館の年間利用者数	452,001 (2014年度)	1,378,754 (2019年度)	900,000 (2020年度)
一歩足を伸ばして楽しめるまち	②歩行者自転車通行量 (人/日)	国道2号南側の商店街区域6地点の平日・休日の日中の平均歩行者等通行量	16,737 (2015年度)	20,188 (2019年度)	20,000 (2020年度)
	③新規出店者数 (店/年)	国道2号南側の商店街区域の代表的な7つの通りに面した店舗の1年における変化(新規開店・入替・改装)数	12 (2015年度)	20 (2016~2019年度平均) 16 (2019年度)	12 (2016~2020年度平均)

再開発事業完了後から来街者が増加・維持しています。また、2019年は、市制施行100周年及び明石城築城400周年の節目の年であったため、「あかし伝統夢まつり」「B-1グランプリin明石」の開催など多くのソフト事業に取り組んだ結果、2019年度の実績値は、すべて目標値を上回りました。

2 中心市街地活性化協議会での主な意見

中心市街地活性化の促進や定期的なフォローアップを目的に学識経験者、市民及び商工関係者などで構成された「明石市中心市街地活性化協議会」を毎年度開催しています。

2020年2月18日に開催した協議会において、数値目標の達成状況を報告し、委員から次のような意見がありました。

- ・ 再開発事業完了後、来街者が増加し、歩行者・自転車通行量も増加したことは喜ばしい。増加した来街者の受け入れ先として新規出店者数も増加した。国道2号を横断する人の流れを生み、面としての広がりを生んだという評価もできる。
- ・ 数値目標が達成され、数年に渡り維持している点は誇るべき結果である。一方で調査地点によっては、歩行者・自転車通行量がそれほど上昇していない地点がある。今後も人の流れの調査・分析を重ね、中心市街地活性化施策の成果をより広い範囲に定着させていく努力が必要である。
- ・ 計画期間が残り1年となり総仕上げの段階にある。市役所新庁舎の整備など大きなプロジェクトの進捗により、中心市街地の様子がさらに変化していく可能性が高く、中心市街地の活性化を南エリアにも展開させていくことができるか、真価が問われる。今後もそれぞれの立場で中心市街地の発展に理解と協力をお願いしたい。

3 今後の予定

本年度は、計画期間の最終年度となります。

既に計画の数値目標を達成していること、また、明石駅前南地区市街地再開発事業に代わる具体化された核事業が現段階ではないことから、国の認定を受けた中心市街地活性化計画は、本年度末をもって終了します。

今後につきましては、中心市街地を含めた市内全域の均衡ある発展にも考慮した上で、新型コロナウイルス感染症について不透明な部分もありますが、回復期を見据えた取組を行うとともに、上位計画となる次期長期総合計画「(仮称)あかしSDGs推進計画」の策定状況を踏まえながら新たな計画の策定に向けて検討を行います。